

小平市公共施設白書 概要版

平成27年2月

● 本編は市のホームページ等をご覧ください。「小平市公共施設白書（平成27年2月）」で検索してください。

作成の背景（本編はじめに）

小平市は、公共施設を数多く建設し、行政サービスの充実を図ってきました。

現在、公共施設の多くは老朽化が進むとともに、今後予想される人口減少や少子高齢化により、公共施設を取り巻く環境が大きく変化することが想定され、将来を見据えた公共施設のあり方について、さまざまな検討が必要となります。

「小平市公共施設白書（以下、「白書」という。）」では、人口や財政の状況をはじめ、公共施設の現状と課題を記載しています。白書を活用して、持続可能で安全な公共施設の今後のあり方について、市民の皆様とともに方向性を模索していきたいと考えています。

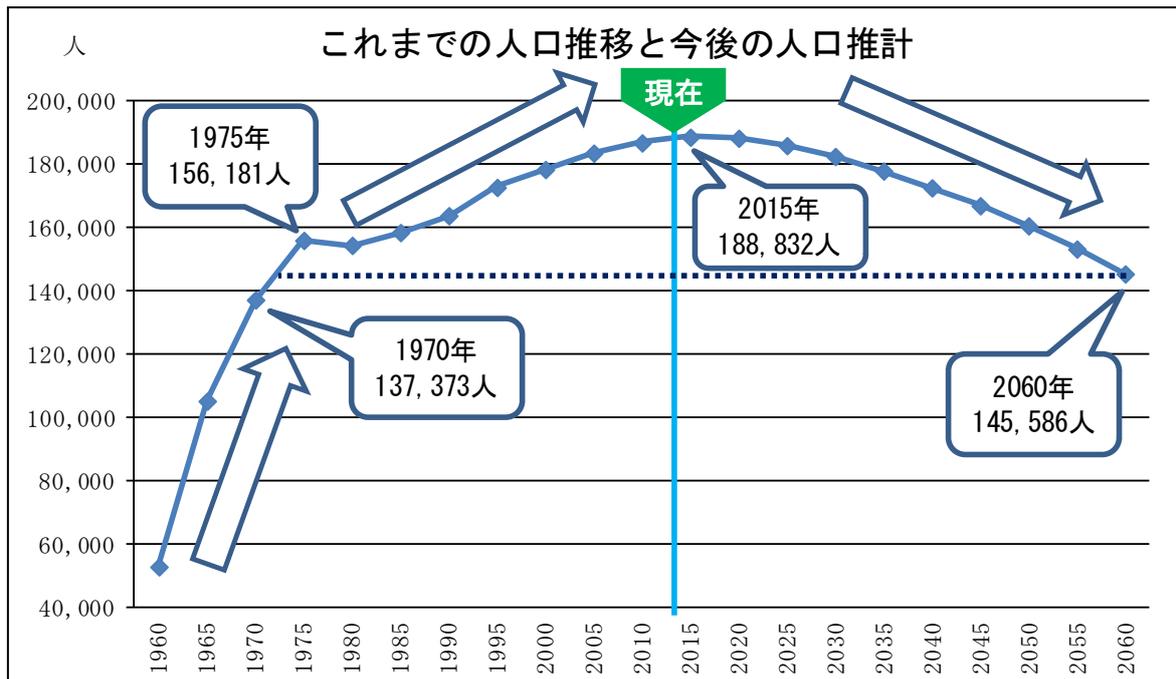
白書の対象施設（本編 1 ページから 10 ページ）

白書は、市民の利用する図書館やスポーツ施設、行政サービスを提供する市庁舎等の公共施設を対象とし、道路、橋りょう、下水道のインフラ資産や小規模な公共施設は除いています。白書で取り上げる公共施設は以下のとおりです。

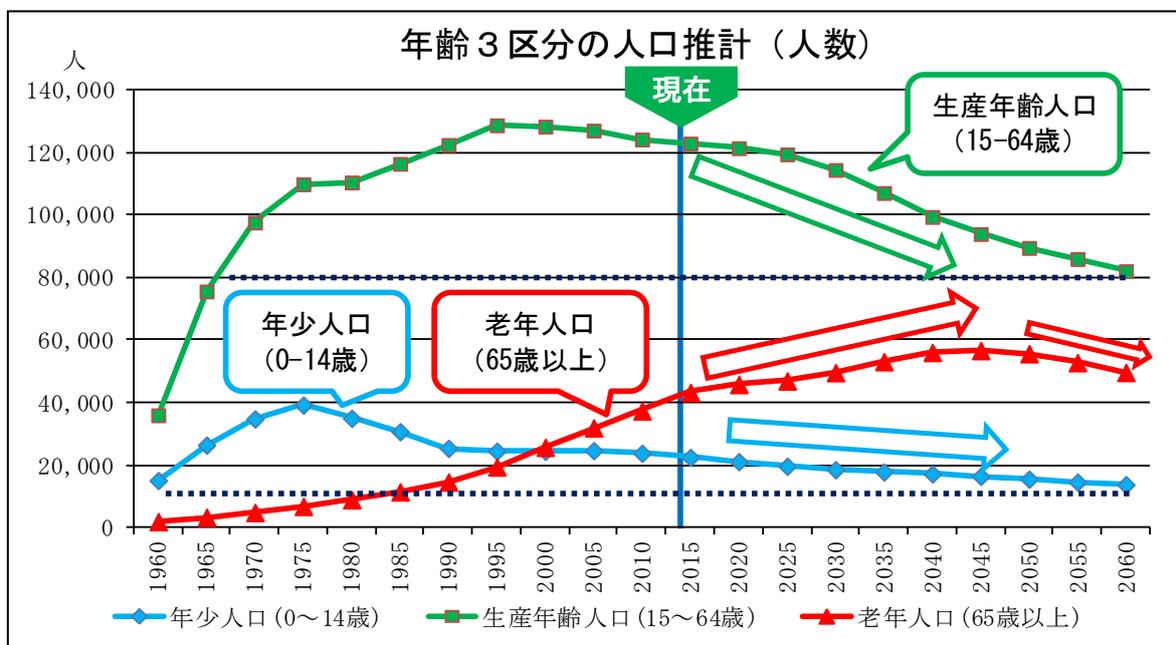
区 分	分 類	具体的な施設名
行政系施設	庁舎等	市庁舎、健康福祉事務センター等
	消防施設	消防団分団詰所
	その他行政系施設	清掃事務所、建設事業所
供給処理施設	供給処理施設	リサイクルセンター、リプレこだいら
市民文化・社会教育系施設	地域コミュニティ施設	地域センター、公民館、元気村おがわ東等
	文化施設	市民文化会館（ルネこだいら）
	図書館	図書館
	博物館等	小平ふるさと村、平櫛田中彫刻美術館等
スポーツ・レクリエーション系施設	スポーツ施設	総合体育館、テニスコート、グラウンド、プール等
	レクリエーション施設・観光施設	きつねっばら公園子どもキャンプ場
学校教育系施設	学校	小学校、中学校
	その他教育施設	学校給食センター等
子育て支援施設	幼児教育・保育施設	保育園
	幼児・児童施設	児童館、学童クラブ等
保健・福祉施設	高齢者福祉施設	高齢者館、高齢者交流室等
	障害者福祉施設	障害者福祉センター、あおぞら福祉センター
	保健施設	健康センター
	その他社会福祉施設	福祉会館
公園	公園	公園
その他	その他	自転車駐車場、被災者一時生活センター

人口（本編 11ページから13ページ）

小平市の人口は、2015年(平成27年)の18万9千人をピークに減少すると推計しています。



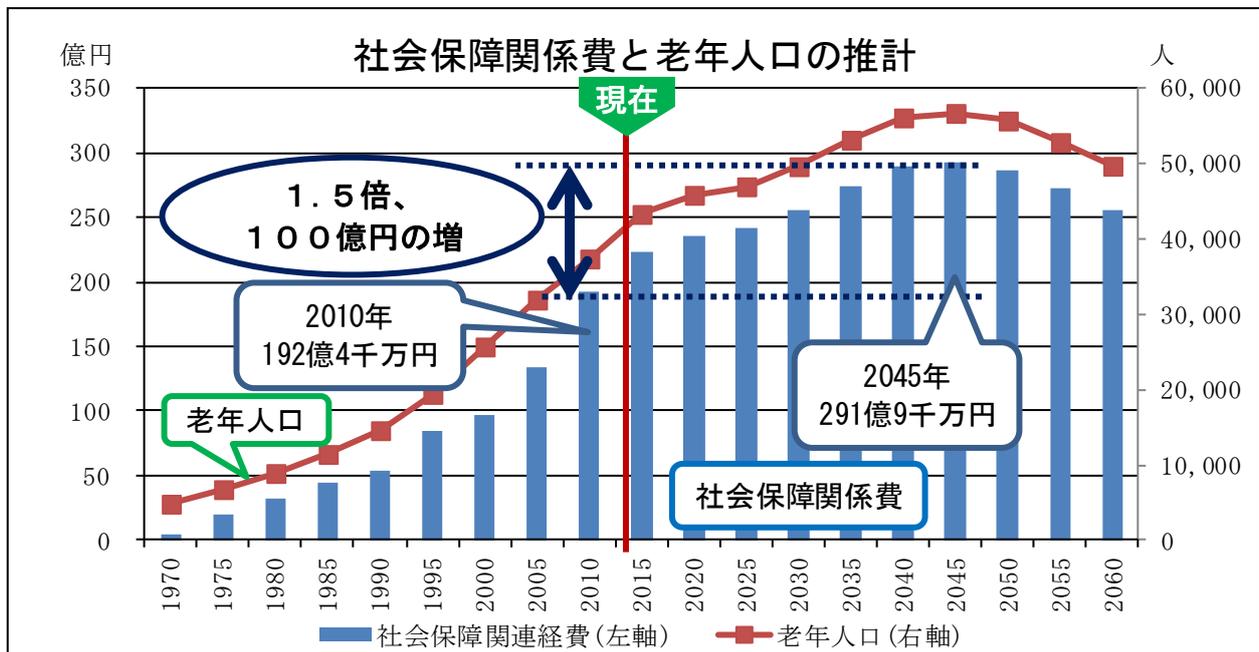
年少人口（0-14歳）、生産年齢人口（15-64歳）、老年人口（65歳以上）の年齢3区分の関係では、年少人口と生産年齢人口は減少を続け、老年人口は2045年まで増加傾向が続くことが想定されています。



人口推計から、**人口減少・少子高齢化**が進んでいくと想定されます。

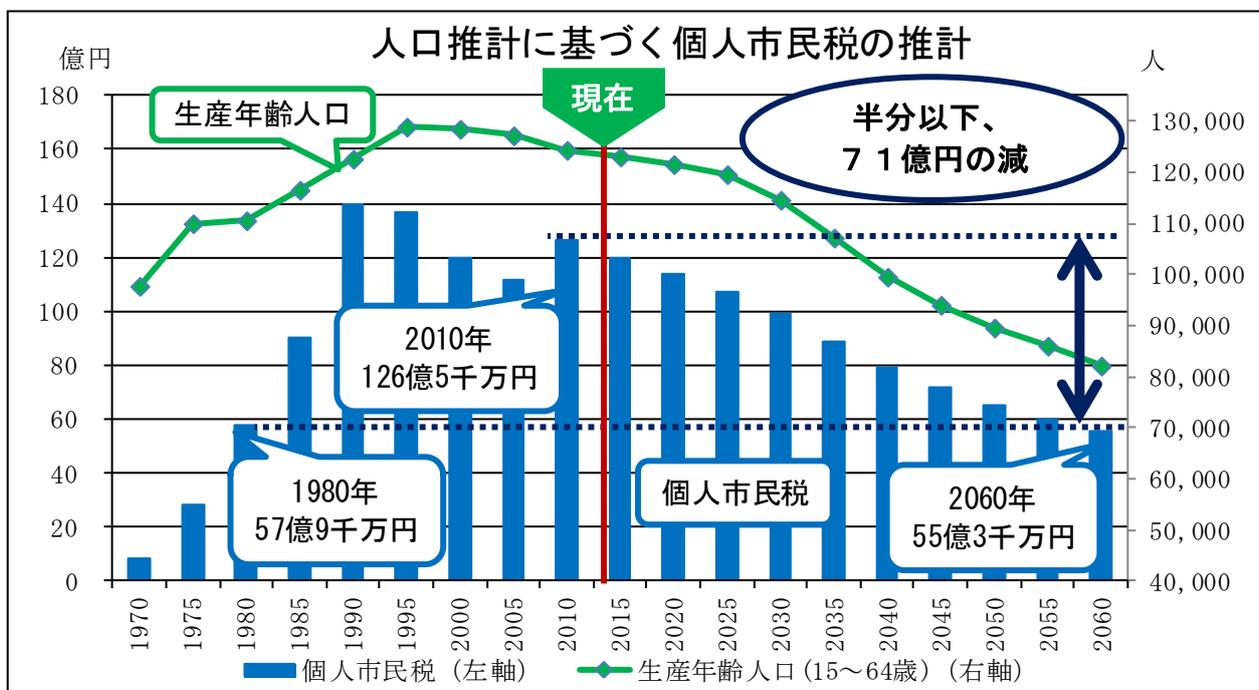
財政（本編 14ページから22ページ）

歳出では、老年人口の増加に伴い、生活保護や介護などに係る社会保障関係費が、2010年度（平成22年度）の192億円から、2045年度には1.5倍の291億円となり、100億円の増になる可能性があります。



※社会保障関係費の推計は、現行制度を前提として、老年人口推計の伸び率を乗じて算出しています。

一方、歳入では、生産年齢人口の減少に伴い、個人市民税が2010年度（平成22年度）の126億円から、2060年度には半分以下の55億円となり、71億円の減となる可能性があります。

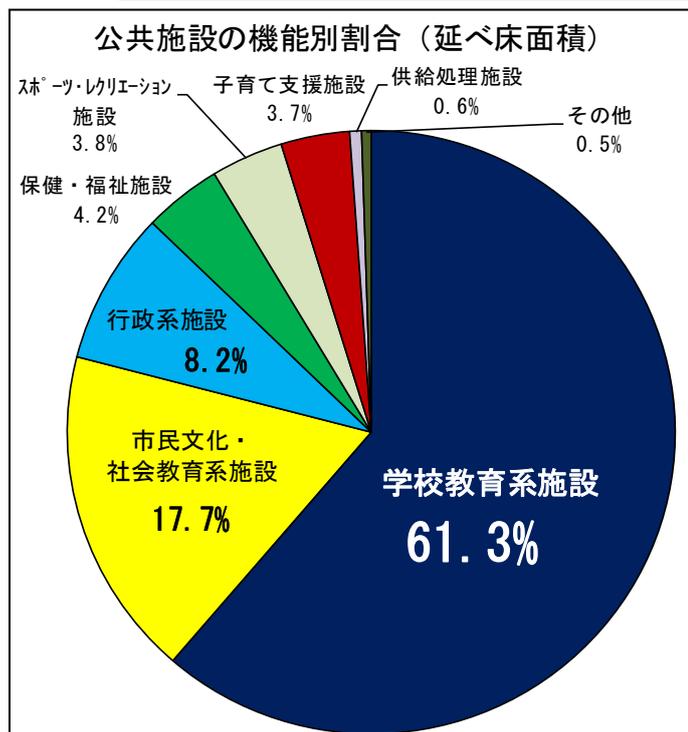
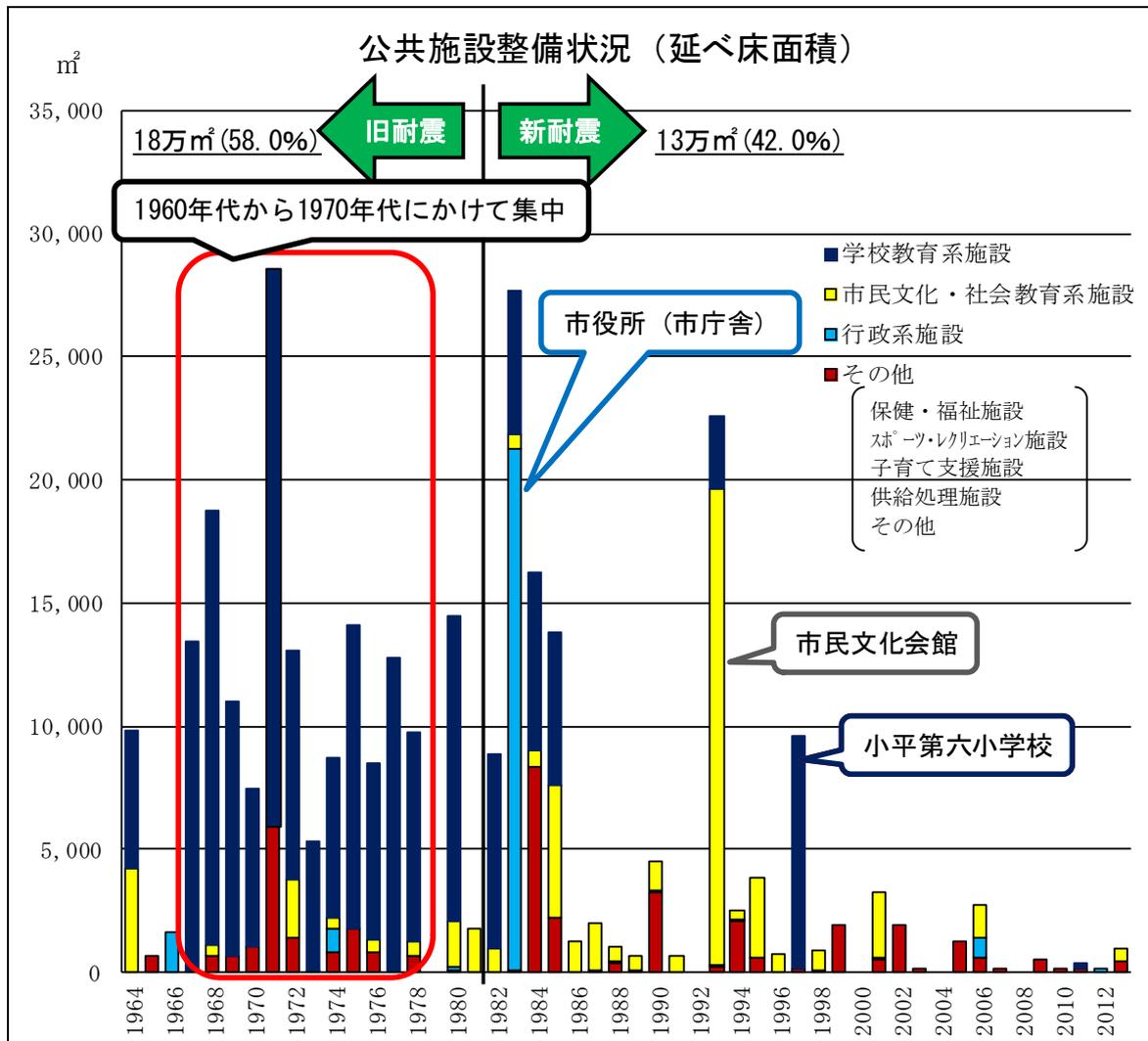


※個人市民税の推計は、現行制度を前提として、生産年齢人口推計の伸び率を乗じて算出しています。

人口推計に基づく財政分析では、**財政バランスの悪化**が想定されます。

公共施設の状況 (本編 23ページから36ページ)

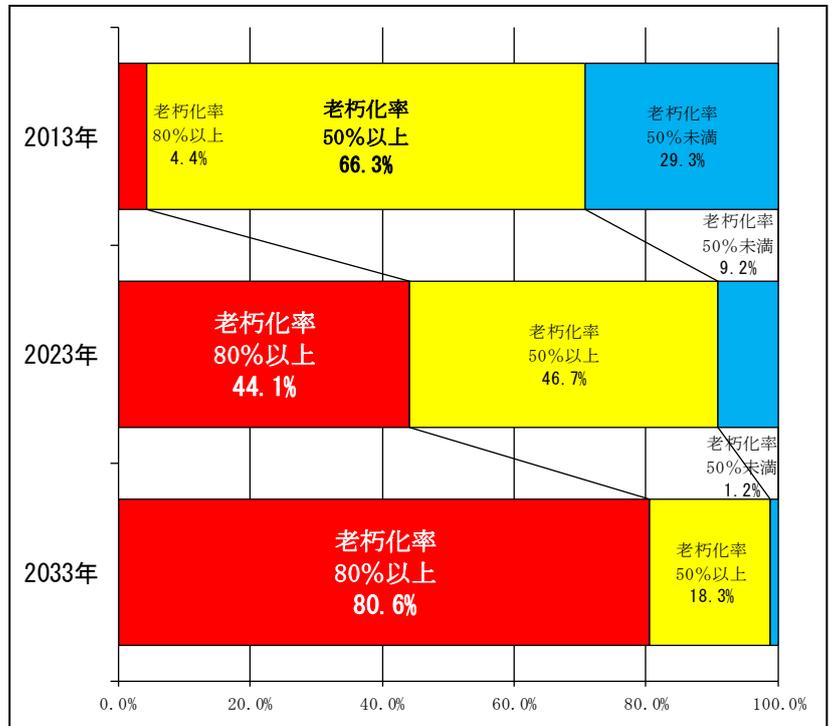
小平市の公共施設は、急激に人口が増加した1960年代から1970年代にかけて集中して整備し、1980年代以降も、市役所（市庁舎）や市民文化会館（ルネこだいら）など大規模な施設を建設、2013年（平成25年）現在で公共施設の数180施設、総延べ床面積では31万㎡となっています。



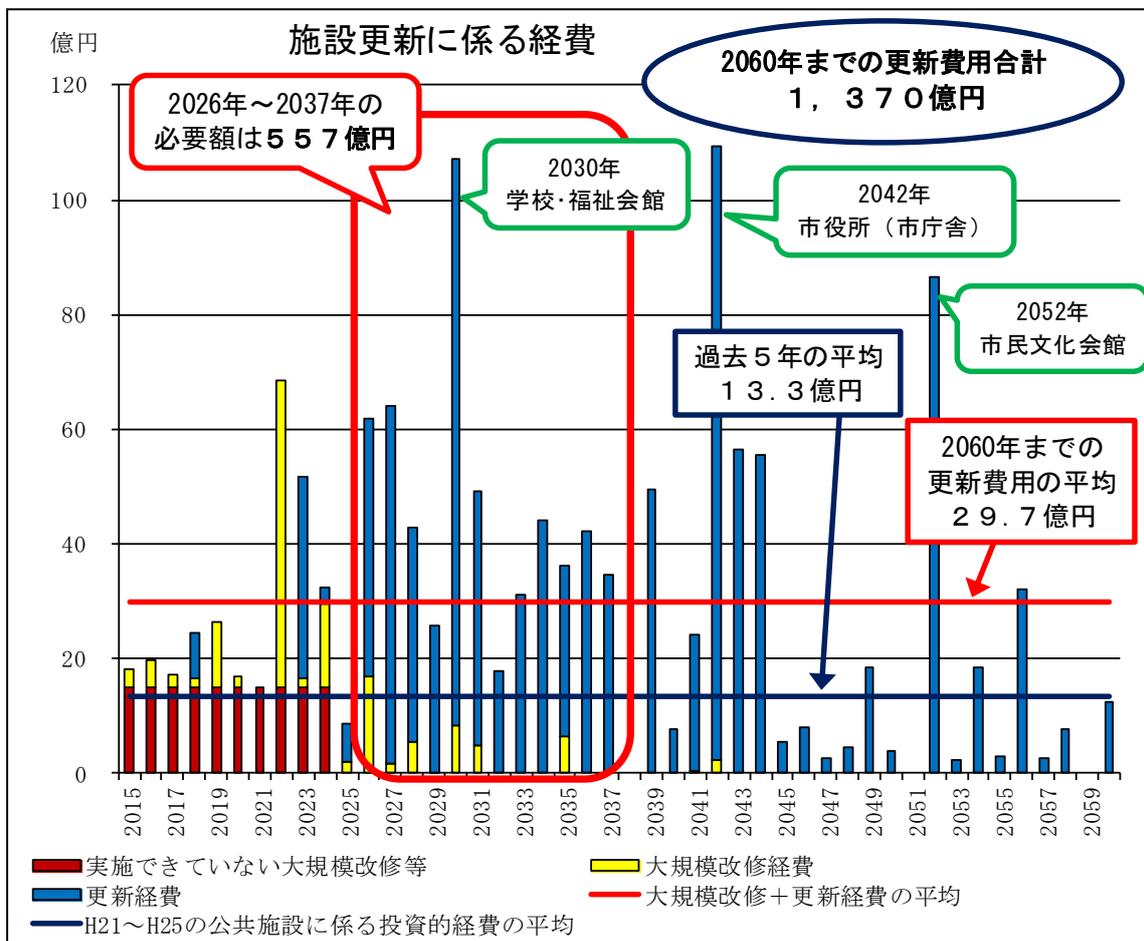
分類ごとの延べ床面積の割合は、小・中学校の校舎・体育館などの「学校教育系施設」が全体の61.3%を占めています。続いて「市民文化・社会教育系施設」、「行政系施設」となっています。

公共施設の老朽化の状況は、2013年（平成25年）現在、老朽化率50%以上が全体の約66.3%を占めており、20年後には老朽化率が80%以上の公共施設の割合が80%を超え、多くの建物が更新時期を迎えます。

老朽化率：目標耐用年数に対する経過年数の割合



これまで保有してきた公共施設をすべて同じように更新する場合、2060年までの更新費用の合計は1,370億円にのぼり、毎年29億円以上の費用が必要となります。2009年度（平成21年度）から、2013年度（平成25年度）までの5年間に公共施設の改修等に使われた費用の平均は13億円なので、毎年2倍以上の資金を準備しなければならないこととなります。また、2026年から2037年にかけて、多くの公共施設が一斉に更新の時期を迎えます。



公共施設の状況から**施設の老朽化・更新時期の集中**が想定されます。

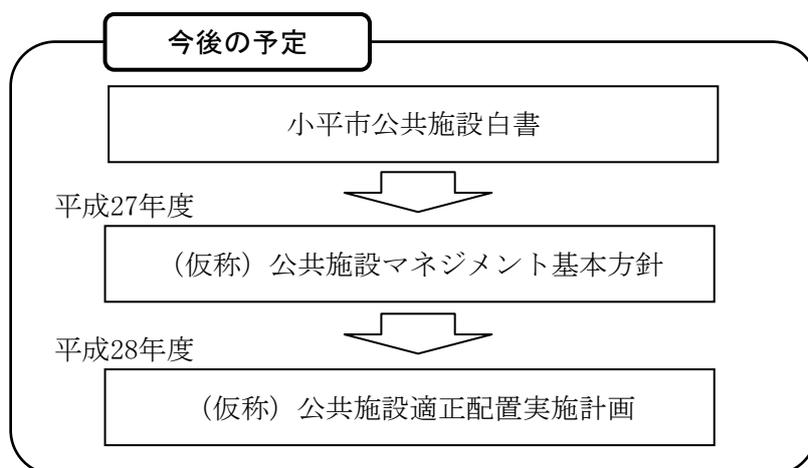
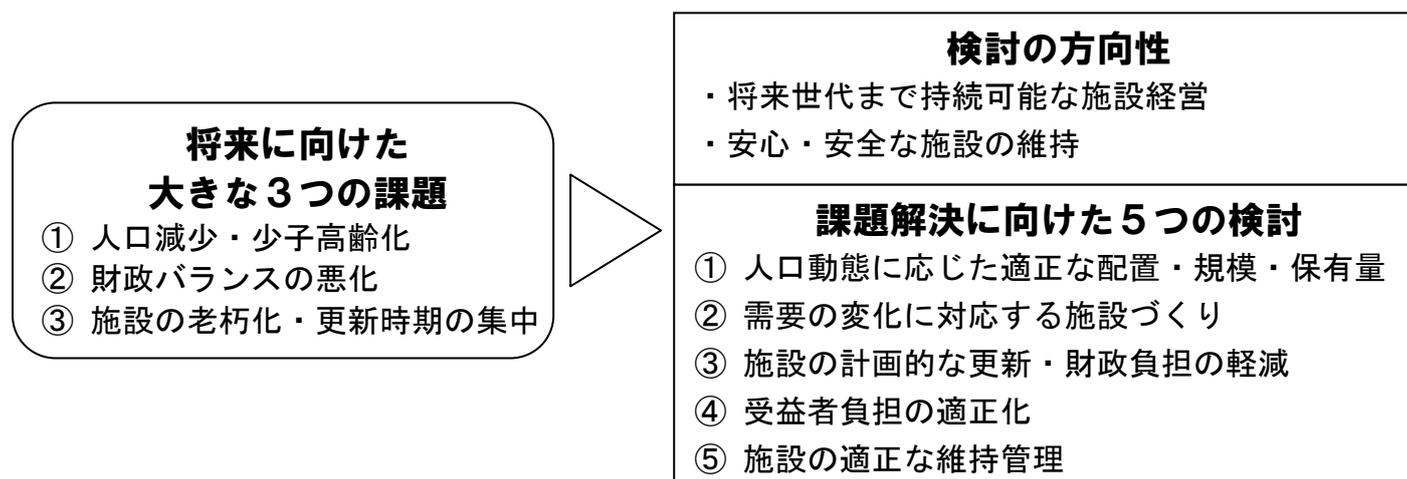
機能別の特徴と課題（本編 37ページから134ページ）

白書では、機能別に特徴と課題を記載しています。機能は、この概要版1ページの分類表の分類欄に記載している「庁舎等」から「その他」までの20項目となります。それぞれの機能について、次の4つの視点で分析し、特徴と課題を示しています。

1 用途分類、設置目的等	施設が担う役割などの視点
2 設置の経緯・配置基準	施設を設置した経緯や配置のバランスなどの視点
3 利用・運営状況・類似性	施設の利用状況や運営に係るコストなどの視点
4 機能が属する土地・建物の状況	施設の耐震・バリアフリーなどへの対応に関する視点

今後の取組について（本編 135ページから138ページ）

将来世代まで持続可能な施設経営を行い、安心・安全な施設を維持する必要があり、白書で記載した大きな3つの課題を解決するため、5つの検討を進め、小平市の公共施設に関する取組を推進してまいります。



小平市 企画政策部 行政経営課
 〒187-8701 東京都小平市小川町二丁目1333番地
 電話：042 (346) 9756 Fax：042 (346) 9513
 メールアドレス：gyoseikeiei@city.kodaira.lg.jp